田畑の草種

金狗尾・金狗児・金犬子草（キンエノコロ）

（公財）日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地　須藤　健一

イネ科エノコログサ属の一年草。全国の道端、畦、土手などの日当たりのいい草地に生育する。背丈は30cmから80cmほど。茎がしっかりして直立、叢生する。枝先に長さ3cmから10cmほどの花穂をつけ、花穂には黄金色の刺毛を密につける。この花穂全体の刺毛が日に輝くと黄金色に浮き上がるのでこの名がついた。

エノコログサ属には世界に100種ほどがあるという。そのうちの8種が日本でみられ、五穀に含まれる粟もエノコログサ属で縄文の時代から古人に利用されてきた。万葉人たちはその粟を歌にも詠っている。

しかしその粟よりも、粟の原種とされるエノコログサよりも古くから日本にあったとされるのがキンエノコロである。秋の夕陽がこのキンエノコロの金色の穂にあたり、風に揺れる。その様は懐かしい子どもの頃の野遊びの場。今でも、稲刈りが終わったばかりの田の畦で、籾を運び出した農道のわきで、黄金色の穂がゆらりゆらりと揺れるのを見ると妙な郷愁にかられてしまう。まだ、万葉人たちの頃には名がなかったのであろうが、きっと、このキンエノコロが夕陽を浴びて金色に輝く様に心動かされていた歌人がいたに違いない、と思うのだが。キンエノコロも、エノコログサも万葉集にはない。

キンエノコロはそんな郷愁を誘うような風景を作り出す。現代の歌人前田康子の歌に、キンエノコロを詠った歌があった。

キンエノコロという呼び出し音で
　電話したい日の暮れ遠目などして

統計データから

平成30年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

我が国の耕地面積は442万haで，平成30年の田畑計の農作物作付（栽培）延べ面積は404万8,000haで，前年に比べ2万6,000ha（1%）の減少，耕地利用率は91.6%で，前年並みである。作付延べ面積は長期的に減少傾向にあり，耕地利用率は12年以降ほぼ横ばい傾向で推移している。

田の作付（栽培）延べ面積は223万6,000ha，畑は181万2,000haとなっている（表-1）。なお，上位10の都道府県別の数字を表-2に示した。

作物別にみると，水稲（子実用）の作付（栽培）延べ面積は147万haで36%を占める。麦類（子実用）は27万2,900ha（7%），大豆（乾燥子実）が14万6,600ha（4%），そばが（乾燥子実）が6万3,900ha（2%），野菜，飼料作物等のその他作物が209万3,000haで52%を占める。（K.O）

表–1　平成30年度農作物作付（栽培）面積及び耕地利用率

区　分	作付延べ面積（ha）	耕地面積（ha）	耕地利用率（%）
田畑計	4,048,000	4,420,000	91.6
田	2,236,000	2,405,000	93.0
畑	1,812,000	2,014,000	90.0

表–2　都道府県別（上位10）平成30年農作物作付（栽培）延べ面積

田　（上段：都道府県，中段：作付面積（ha），下段：耕地利用率（%）									
北海道	新潟	秋田	栃木	茨城	山形	福島	福岡	岩手	熊本
210,300	133,500	112,500	98,600	93,500	86,500	80,100	79,800	77,700	74,200
94.6	88.5	87.1	102.3	96.5	93.0	80.7	122.6	82.5	108.2
畑　（上段：都道府県，中段：作付面積（ha），下段：耕地利用率（%）									
北海道	鹿児島	茨城	青森	千葉	長野	岩手	静岡	群馬	熊本
922,800	71,900	56,900	54,100	48,300	46,900	44,800	36,500	33,600	32,500
100.1	83.9	82.2	76.0	94.0	86.9	80.1	84.7	63.6	75.8